



シロイシリナ クネ ルウエネ (城石梨奈と申します)

今年4月から、歴史（近世史）及びアイヌ文化の担当学芸員として勤務しております。生まれ育ちは富山県富山市です。大学と大学院時代は関東で過ごしました。

いつの頃からか、将来の夢はただ一つ、「仕事で世界を飛びまわること」(!) でした。今のところ世界を飛びまわってはいませんが、程よく海外に行き、いろいろな文化に触れ、見聞を広めることができているように思っています。

さて、そのような漠然とした夢しか持っていなかったもので、いざ具体的な生業を選択しなくてはならないとなったときに困りました。あれこれ悩んで挑戦しては撃沈し、という不遇な大学・大学院時代を過ごし、出会いがあり、始めたのが、博物館でのアイヌ関係資料のプロジェクトの手伝いのお仕事でした。そのプロジェクトを通して道内の場所や人々との繋がりができました。

そこから、博物館という場でのアイヌ研究やアイヌ資料の収集活動の歴史に興味を持つこととなり、釧路にも2011年に初めて調査でやってきました。それから一年に一度くらは釧路へ来るようになり、研究

を進めさせていただきました。2013年の秋からは、札幌を拠点にしてアイヌの歴史や文化についても勉強して参りました。

札幌にいた頃から、「将来はぜひ道東の博物館で働きたい!」と公言しておりましたが、まさか釧路市立博物館で働くことができるとは、という思いです。当館で働き始めて、はや半年が経とうとしています。来る前から期待していた通り、自分とは全く異なる専門分野の方たちともお仕事ができるのはとても刺激的で楽しいことです。今後は、釧路地方の魅力の開発とその発信という大きな目標の一翼を担える学芸員として成長させていただくと同時に、釧路の皆様のお役に立てるように、精進していきたいです。

(城石梨奈)

戦時生活を知る

釧路市内の小中学校では、3年生が暮らしの移り変わり、4年生では地域の歴史や産業について、社会科の授業の中で学んでいます。

夏休み明けの2学期は当館で学ぶ目的で、小学生の来館が増えます。2階展示室では実物資料や写真パネル等を使ってこれらを紹介しています。

その中に「戦時生活と釧路空襲」と題したコーナーを設けており、先日も授業で訪れた子供たちに話をする機会がありました。

話の初めで戦争について彼らに問いかけます。「戦争ってどんなことをするの?」「どうして戦争にな

るの?」「勝ったらどんなメリットがあるの?」そして「どこの国と戦争をしていたの」…。

武器を使って相手を殺すこと、領土を増やすためにけんかすること、より多くの資源が手に入る…。彼らには失礼ですが、場合によっては想定していた以上の答えが返ってきます。それを聞きながら引率してきた先生も「ほおー」とでも言いたげにうなずいていたりします。

このコーナーでは、72年前に終わった戦争に関わって、当時使われた暮らしの道具や空襲で受けた被害の写真などを紹介しており、道具の何点かについて子供たちとやり取りしながら使われ方をお話します。また、写真パネルの一つ、

防空演習について話す際には実際に防空頭巾に触れてもらい、さらに当時を実感してもらっています。

自分の話は彼ら自身が調べるためのきっかけ作りと思っていますので、10数分間ですべてを話しませんし、話せません。話の終わりには、戦争によって自分たちの暮らしが脅かされていない今の状況についてあらためて考えてみてくださいとも付け加えるようにしています。

戦争というカードを引く前に他のカードがないのかを一緒に考えられる人間が一人でも増えてくれないかなと、子供たちの顔を見ながら時折思っています。(戸田恭司)